

丸亀さんさん荘

バイステイックの7原則

虐待防止委員会

丸亀さんさん荘
はじめに

私が考えた
7つのこと！

バイステイックの7原則とは



みなさんは「バイステイックの7原則」という言葉を聞いたことはありますか？

提唱したのは、アメリカのケースワーカーであり社会福祉学者のバイステイック博士。世界的にベストセラーとなった「ケースワーカーの原則（1957年出版）」という本の中に記された援助の基本原則を「バイステイックの7原則」と呼び、介護や保育の現場で非常に役立つ考え方だ！と注目を浴びるようになりました。

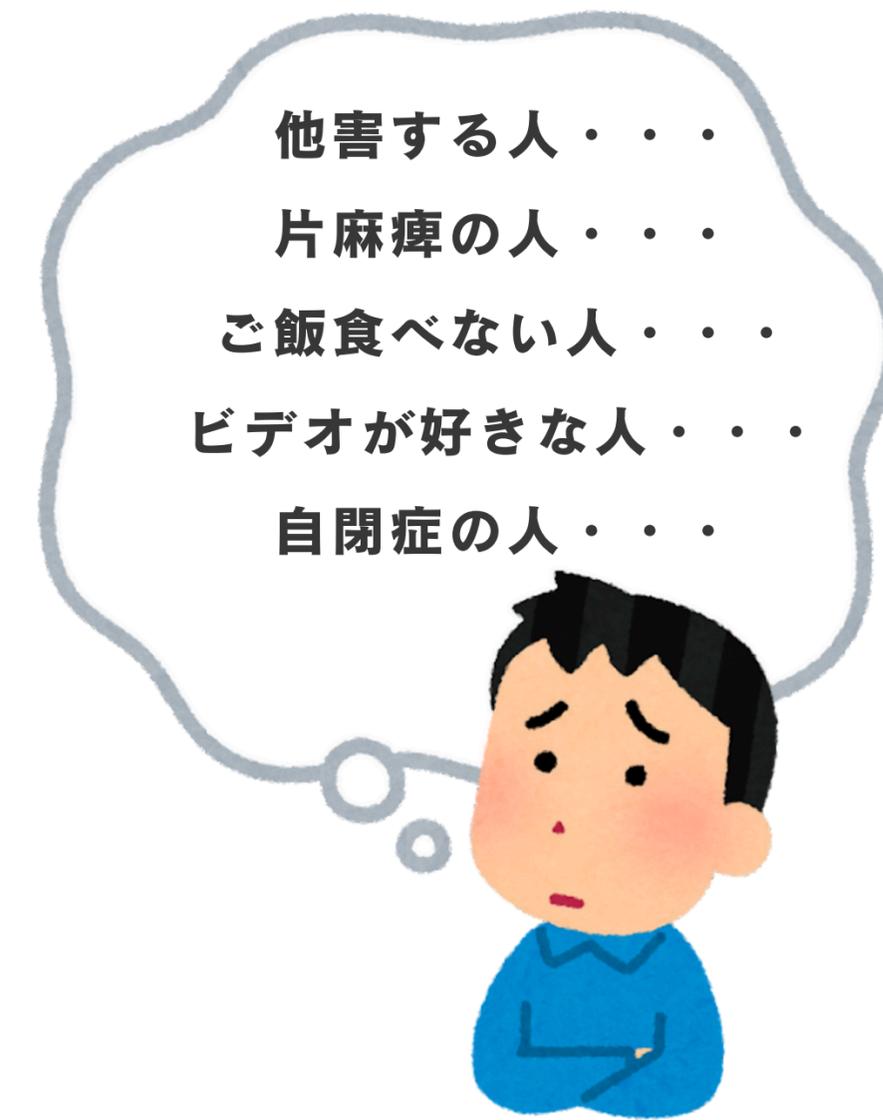
1. 個別化の原則

利用者を **かけがえのない個人** として捉える！ という考え方。

「こういう人はこうだろう」と決めつけず、その人に合った関わりや解決策を見つけよう！ という考え方です。

介護度や病名が同じでも、皆それぞれ悩みや問題は全て違う！
これまでの経験やケースから当てはめない！

一人の人間として、これまで歩いてこられた生活歴や今の状況を考え、
どんなニーズがあるか考えることが重要です。



2. 意図的な感情表現の原則



泣かないで！
笑って！元気出して！
そんな悲しいこと言わないで！

どんな感情表現も認めよう！プラスの感情だけでなく、マイナスな感情も自由に表現させる考え方。

ネガティブな感情を非難せず、それを「表に出していい」ということを認める。

→胸にためているストレスや感情を伝えることで、自分の気持ちと向き合うことで落ち着くこともあります。

「泣いたり怒ったり叫んだり」という感情を受け止めてくれたと感じられるようにすることが大切です。

信頼関係が構築されていない場合や初対面など関係性が浅い場合は、逆効果の場合も。

否定すると、もうこの人には話さないでおこうと心をふさぐ→それは支援になるのか？

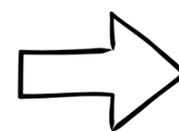
相談しやすい人になろう！



泣いても
ええんやで



毎日笑わなくても
ええんやで！



ワイは何が嫌なんやろか？
自分を見つめ直そう

3. 統制された情緒関与の原則

我々は利用者の家族や友達ではない



「職員自身が自分の感情をきちんと自覚し、利用者に引きずられないようにする」という考え方。

職員は利用者の感情に飲み込まれず、自分自身の感情をコントロールする必要があります。

利用者の問題解決に向けて、必要以上に感情移入することなく冷静に対応しましょう。

**感情に流されずに
客観的に判断しよう！**

利用者に対してときに「私が何とかしなくちゃ！」と生活や人生に感情移入し過ぎて家族のように考える職員がいます。しかし、あくまでも援助者という立場は忘れてはいけません。

「本当に必要なことは何なのか」「利用者にとって何がベストなのか」を正確に導くためにも、利用者の心を理解すると同時に、自身の感情をコントロールすることが大切だという原則です。



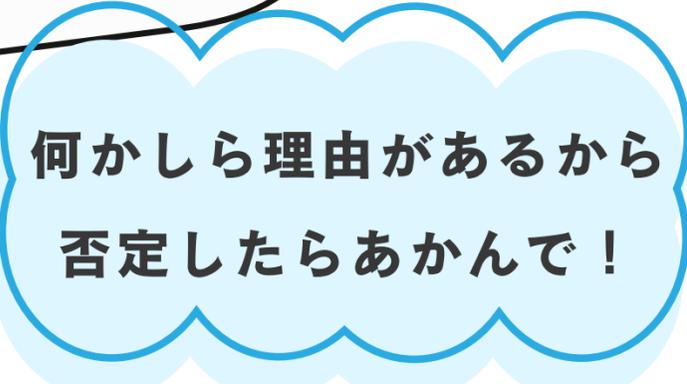
4. 受容の原則



なんであの人は
服を脱ぎまわるんや？
なんで叫ぶんや？



ワイからすると
それはおかしいと思う！



何かしら理由があるから
否定したらあかんで！

利用者自身の感情や考え方、個性、行動などを頭ごなしに否定するのではなく、「どうしてそのような思考になるのか」

「なぜこういった行動をするのか」と**その人自身のありのままを受け入れる**という基本的な姿勢

その人の存在自体を価値あるものとして認め、背景を理解しようと努めることが本質で、信頼関係を築くための第一歩とされています。

- 否定しない、命令しない: 「こうすべき」という価値観で相手を判断せず、その人の「そう感じているんですね」という気持ちをまずは受け止める。
- 背景を理解する努力: なぜそのような考えに至ったのか、その人の人生経験や状況を理解しようと努める。
- 非言語コミュニケーションを意識する: 表情や姿勢など、言葉以外の部分でも受容的な態度を示す。
- 「すべてを許容する」ではない: 道徳やルールに反する行為も、行為そのものを肯定するのではなく、その行為に至った背景や人間性を「現実」として捉え、適切な援助につなげる。

5. 非審判的態度の原則

利用者の言動を「良い・悪い」「正しい・間違い」と自分の価値観で評価・判断・非難しない。

なぜそのような行動に至ったのか、その背景や理由を中立的に理解しようと努める姿勢のことです

介護の現場でありがちな利用者からの介護行為に対する拒否、暴言・暴力。「少しは感謝の気持ちをもてばいいのに」「私たちが介護しなかったらどうやって生きていくの？」とつぶやく介護職もいます。

しかし、非審判的態度の原則では決して相手を裁くことはしない・利用者の審判になってはいけません。

「どれだけ拒否や暴言・暴力してもいいですよ」と容認することではなく、その背景を考えていきます。



6. 自己決定の原則



次の外出先はハローズです
土曜のおやつはどら焼きです
服は私が用意しておきます



え～
イオン行きたい～
ゴディバ食いたい～

人生の主役は利用者自身！自分のことは自分で決める！という考え方。

生活や人生に関わること、問題を考えることはあくまでも本人で判断すべきことであり、人生において自己決定は当たり前のように行っていることなのです。

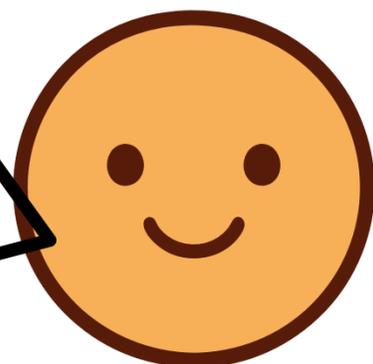
例えば、「朝はパンとごはんどっちにしようかな→パンにしよう」「明日はどこに出かけようかな→映画を観に行こう」と、自分の人生の進行方向は自分で決めていますが、加齢や障害によってこの当たり前の自己決定ができなくなる。

職員は**命令的に話さず**、自己決定しやすいように情報提供や援助を行います。

小さなことでも自分で決めることで、人生を主体的に捉えることができるのです。

ワイが自分で決めるで～

土日のおやつ
何にしよう？



明日どの服
着ようかな？

次の外出は
ディズニーで
決まりやな！



いやディズニーは
遠いわ！笑



丸亀さんさん荘

バイステックの7原則

7. 秘密保持の原則

「プライバシーを守り、同意なく情報を他者に漏らさない」という考え方。

職員は利用者の人生や生活に関わるため、個人情報や内に秘めておきたい問題について知っていますが、個人が抱えている問題や悩みは隠したいものです。「秘密はきちんと守られる」と実感されることで、より深い相談につながり信頼関係が生まれます。

例えばデイサービスの利用を近隣に秘密にしたい方もいらっしゃいます。

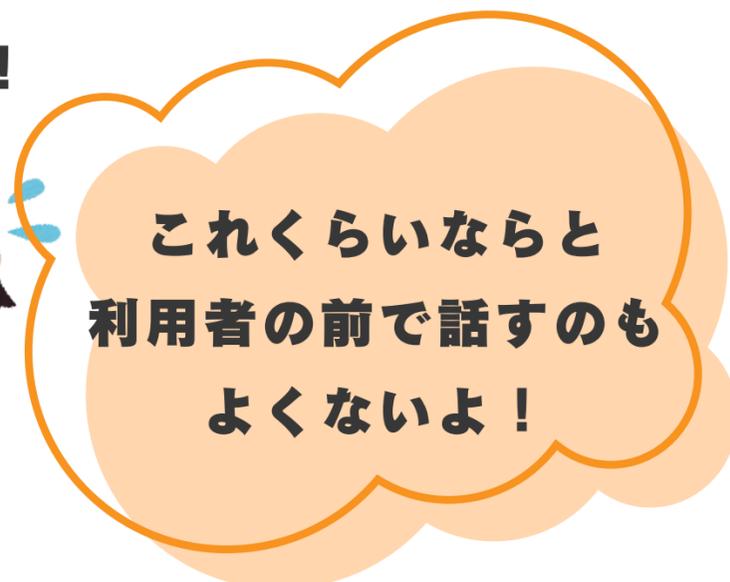
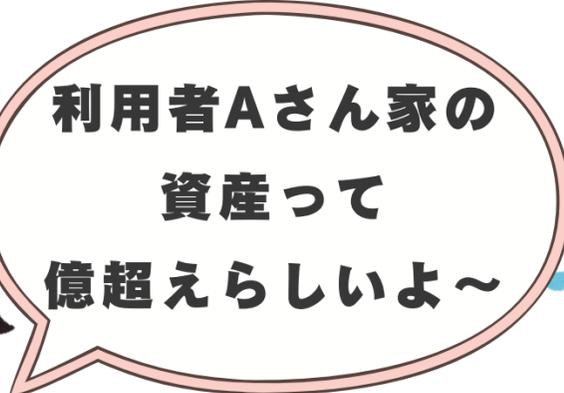
「おはようございます！〇〇デイサービスです」とインターホン越しに大きい声で伝えず、スタッフの個人名を伝える、〇〇デイサービスと大きく書かれたポロシャツが見えないように上着を羽織るなど…

はじめにどう対応すればいいか確認することで、信頼感をもってもらえるので個人情報を守る、ということは関係性の土台となります。

へえ～
利用者Aさん家の
資産って
億超えらしいよ～
えっ！！
これくらいならと
利用者の前で話すのも
よくないよ！

おはようございます！
丸亀さんさん荘です！！

しっ、静かにして～



相互作用の3つの方向性

相互作用とは、働きかけによってお互いに影響を及ぼすこと。
では「バイステックの7原則」を取り入れることで、利用者と援助者にはどのような相互作用が生まれるでしょうか。



ワイはあんたのこと
ようわかつとるで！

1. 利用者のニーズ

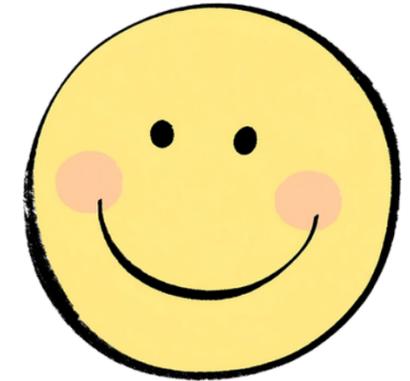
まずは利用者自身のニーズを把握することができます。

「1人の人間として認めてもらいたい」「自分で意思決定をしたい」

「否定されたくない」などといった利用者の思いを知ることが大切です。



ほんまに～？
ちょっと話きいてくれる？



2. 援助者の反応

ニーズを把握したことで、援助者は利用者へ「私はあなたの思いを理解していますよ」「あなたを受け止める準備はできていますよ」と反応を示すことができるようになります。それにより、利用者は大きな安心感を抱くでしょう。安心感は信頼関係を築く上でとても大切な要素です。ニーズを把握して終わりではなく、その後はしっかりと反応を見せ「私は気づいているよ」という意思表示をしましょう。

3. 利用者の気づき

最後は援助者の反応に気づいた利用者が、行動を起こそうとします。

言葉や態度が変わり始めたら、それは効果が出ているということ。その変化も見逃さず、きちんと援助者が反応し、引き続き7つの原則を守ることで、お互いの信頼関係はどんどん強いものとなっていくでしょう。

・ 個人ワーク

- ・ 支援者としてどう活用するか
(心構え、受け取り方など)

- ・ 利用者に対してどう活用するか
(声かけ、接し方など)

・ グループワーク

- ・ 支援者としてどう活用するか
(心構え、受け取り方など)

- ・ 利用者に対してどう活用するか
(声かけ、接し方など)